



令和6年1月号

伊勢市青少年相談センターだより

伊勢市青少年相談センター 伊勢市小俣町元町540 小俣総合支所2階 Tel 22-7894



年頭にあたって

伊勢市青少年相談センター 所長 沖塚 孝久

昨年度は、伊勢市青少年相談センターの諸活動に格別なるご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

はじめに、本年1月1日に発生した令和6年能登半島地震により、お亡くなりになられた方々のご冥福を心からお祈りするとともに、被災されたすべての方々に心よりお見舞いを申し上げます。

さて、我が国における青少年の非行情勢については、警察の統計によりますと近年は減少傾向が続いており、三重県下においても同様とのことです。

しかしながら、青少年を取り巻く環境は、社会と共に変化しています。少子高齢化の中、子育てに不安や負担を抱えた親が増え、地域におけるつながりも希薄化している状況の中、貧困、児童虐待、いじめ、闇バイト、SNS、インターネット、不審者、スマートフォンの青少年への悪影響の問題等のほか、特に特殊詐欺は連日ニュースでも報道されており、不安があります。

県教育委員会によると、令和4年度の公立小・中・高等学校及び特別支援学校での「いじめの認知件数」は5,380件、公立小・中学校における「不登校」の児童生徒は3,845人で過去最多になりました。暴力行為は公立小・中・高等学校で1,268件あり、前年度より増加したとのことです。

伊勢市青少年相談センターでは、今後も青少年の健全育成のため非行防止に対する努力を続けていくことはもちろん、新しい問題についても目を向け、関係機関と協力して、青少年が健やかに育つ環境づくりをめざした諸活動に取り組んでまいります。

何卒ご協力を賜りますように、よろしくお願い申し上げます。

非行少年を生まない社会づくり ～三重県版コネクションズ～

三重県版コネクションズとは、警察が少年や保護者に積極的に連絡を取って少年に手を差し伸べ、社会参加奉仕活動を通じて就学・就労などに結びつける少年の立ち直り支援をいいます。

少年非行の背景

- ・少年自身の規範意識の低下とコミュニケーション能力不足
- ・家庭や地域社会の教育機能の低下
- ・少年自身が居場所を見いだせずに孤立感、疎外感を抱いている現状

非行少年を生まない社会づくり

三重県警察では、平成23年から次代を担う少年の健全育成や少年の規範意識の向上、絆づくりの強化を図るために警察が牽引役となって

- ① 少年に手を差し伸べる立ち直り支援（三重県版コネクションズ）
- ② 少年を見守る社会気運の向上

を2本柱として「非行少年を生まない社会づくり」を推進しています。

少年に手を差し伸べる立ち直り支援活動

大学生ボランティアや少年警察ボランティア等と連携し、居場所づくり体験（スポーツ支援・料理体験等）や就業支援（学習支援・農業体験等）といった活動を通して、少年にやりがいや達成感を得させ、規範意識の向上を図る場を作っています。

少年を見守る社会気運の醸成

少年が孤立して非行に走ることをないよう、地域社会全体で厳しくも優しい目で少年を見守る気運を醸成するため、居場所づくり体験（職場体験を通じた大人との触れ合い・ボランティアによる通学時のあいさつ運動・低年齢少年等に対する非行防止教室を実施しています。これらの活動は、大学生ボランティアや少年警察ボランティア等による活動を「絆づくり」通信で紹介しています。詳しくは三重県警察のホームページで是非ご覧ください。

青少年の日 5日
家庭の日 21日

今後も伊勢市青少年相談センターでは、青少年が集まる施設等において、青少年に「愛の声掛け」を行い、見守りと指導を続けていきます。